

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価 (3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①「7つの力」を育むため、新学習指導要領に伴う教育課程を編成し、授業改善中心としたカリキュラムマネジメントにより運用する。</p> <p>②知的探究心や主体的に学ぶ学習方法の改善に努める。</p> <p>③生徒の思考力の向上を図り、判断する力を育むための組織的授業改善に全校で取り組む。</p>	<p>①新教育課程の学習活動と評価の実施をさらに深めるとともに、新旧教育課程並行実施の最終年度における両者の円滑な運用を目指す。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを主軸とした授業改善の推進を継続し、教科内外の組織的な取組をさらに進めていく。</p> <p>③指定校事業「学習評価に係る研究」をさらに進めるとともに持続可能な研究を実施する。</p>	<p>①新しい教育課程の学習活動のあり方を繰り返し共有しながら、旧課程との評価の手法の相違点を確認し、学習指導と評価の円滑な運用を進める。</p> <p>②教科全体で授業改善をさらに進めていく環境を整え、生徒の学習活動をさらに深化させる取組を進める。</p> <p>③指定校事業としての評価の研究の中で、生徒の「学びの調整力」の向上を図る授業のあり方と、その調整力の評価手法について組織的に検討する。</p>	<p>①新旧教育課程の相違と留意点について確認し、それを踏まえた成績関係の処理を周知徹底することができた。</p> <p>②学習評価の研究とあわせて、本校における授業改善の視点を共有し、検討する環境を整えることができた。</p> <p>③指定校授業の研究に向けた組織的で持続可能な取組を進めることができた。</p>	<p>①指定校事業としての学習評価研究への取組の中においても新教育課程における学習活動のあり方について研修を重ね、職員の理解を深めてきた。併せて、評価手法の違いに伴う成績処理についても都度確認しながら確実に進めることができた。</p> <p>②③学習評価の研究と授業改善への取組を並行して行うことで、指導と評価の一体化の視点共有を深めることができた。また、外部講師との連携や研修会、説明会、各教科への推進委員配置等を通して全校での組織的な取組を進めることができた。</p>	<p>①異なる教育課程の並行実施にともなう成績処理上の問題は無かったが、新しい校務支援システムでの出席管理の仕組みを導入する中で成績処理作業への従来からの変更点の整理の徹底が必要と考える。</p> <p>②③生徒の「学びの調整力」の向上を目指した授業改善の具体は授業者によって多様であり、その多様性をどう整理し共有を図るか、また、「記録に残す評価」のあり方をどのようにまとめていくか等を課題として検討していきたい。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びに係る授業改善で具体的な手法やツール開発、共有を図ることが重要である。グループ学習等のコミュニケーション能力を高める手法を的確に運用することが望まれる。</p> <p>②「学びの調整力」をどのように伸張させるか、教え方・評価の標準化だけでなく、学習意欲を引き出す仕組みや仕掛けを具体的に絶え間なく行っていく必要性を感じる。また、将来の社会変化に対応できるスピード感も重要である。</p> <p>②③リアリティある教材、実践的で、生徒の主体的課題解決力、協働性においても先駆的な取組を期待したい。</p> <p>②ICTの活用は大いに評価できる。さらなる利活用を期待したい。</p>	<p>①③新教育課程への移行について、旧課程における学習活動や評価方法の研究や授業改善活動を通じて円滑に進めることができた。特に学習評価にかかる研究の指定校事業で生徒の理解や「学びの調整力」を高める指導方法とそのフィードバックとしての評価研究をすすめることができた。今後より実践的な取組により、より深い学びや探究心を向上させる学習成果が得られるよう引き続き授業改善に取り組みたい。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを主軸とした授業改善の取組について、改善や手法の蓄積が進む中、教科の枠を超えた情報・手法共有や、相互研究等の可能性についても今後進めていきたい。</p> <p>③生徒の学力伸張に伴い、さらなる高みを目指し、知識技能の底上げと応用力・調整力・総合力など今後求められる幅広い能力の向上に対応した教育活動を授業改善により展開したい。</p>	<p>○新教育課程の完成年度に向けて研究成果の定着に向けて、さらなる授業改善の推進と研究推進を図りたい。教科ごとだけでなく教科を超えて学習活動のあり方を共有し、生徒の学習をさらに深化させる取組を進めるための研修会を設定し、組織的な授業改善の継続を図る。</p> <p>○研究指定3年目の取組として、この2年間の活動を踏まえ、教科の見方・考え方を踏まえて、生徒の「学びの調整力」向上のための学習活動及び「記録に残す評価」のポイントを整理しながら最終的な発信の場である研究授業に向け実践を重ねていくステップを明確に周知し実行を促進する。</p> <p>○ICTを活用した業務の省力化と効率化により、新たな授業改善の取組や教材・教授内容の研究を進め、さらなる高みをめざせる環境整備を進める。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①多様性と協調性を育み、コミュニケーション能力や協調性を高め主体的で協働的な取組を目指し、学校行事や部活動の活性化を図る。</p> <p>②一人ひとりの生徒への極め細かな支援体制の確立と外部機関との連携を深める。</p>	<p>①生徒主体の行事・部活動を支援するための教員体制を改善・構築し、可能な限り生徒の活動・活躍の場を提供できるようにする。</p> <p>①多様性の認知と理解をさらに進めるとともに、個人の尊重や協調性の育成に向けて教職員と生徒、生徒間のコミュニケーション活性化を図る。</p> <p>②情報発信ツール等も積極的に活用し、個々の生徒の課題や不安を早期に発</p>	<p>①生徒会執行部や各部活動に対して効率の良い活動の工夫ができるように部長会を通して働きかける。また顧問の相互連携・インストラクター等の外部人材の活用を図る。</p> <p>①多様性の認知に関わる啓発研修会を生徒・職員向けに開催する。</p> <p>②情報発信ツール等を積極的に活用し、生徒会と部活動間の情報共有の機会や生徒情報共有の機会を充実させる。</p>	<p>①生徒会役員への支援や必要に応じた部長会の開催ができたか。また映像配信等も織り交ぜながら、新たな行事の形について検討、実施できたか。</p> <p>①多様性をテーマとした研修会・学習会を生徒、職員向けに各1回以上実施できたか。</p> <p>②様々な情報発信ツールを活用した情報共有システムを構築できたか。</p> <p>②生徒情報交換機会を充実させ、必要に応じ</p>	<p>①生徒会執行部との定例会を10回以上設定し、連絡を密にでき、執行部の仕事を支援し、新たな提案を一緒に検討することができた。また、生徒会執行部主催で部長会を行い、清掃活動の役割分担・指示を出すことができた。</p> <p>②Classroomを活用し、文化祭の情報発信やアンケート・投票集計などを生徒会執行部や体育祭幹事を中心に活用することができた。</p> <p>②Classroomを活用し、個々の生徒の不安を早期に発</p>	<p>①行事がコロナ禍以前の状態に戻る中で、改めて内容の取捨選択や工夫をし、より効果が得られるものに改善していく。</p> <p>②サポートドックの振り返りも含めて生徒との面談を複数回行ったりと、教員同士の情報交換を密に行ったりすることで、不安や困り感を抱える生徒を早期に見・対応することができた。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の影響を抑え、各種行事や生徒の自主的活動を展開できたことで、生徒は充実した高校生活を送ることができた。</p> <p>①生徒会の生徒とのコミュニケーションの充実から、多くの生徒の主体的な活動につなげてほしい。</p> <p>②教育相談体制の構築や様々なチャンネルを通しての生徒相談、不安の解消に努めていることは大変評価できる。教職員の負担を軽減しながら、充実した生徒支援体制ができるよう期待している。</p> <p>②SNSの適正利用や効果的な活用を見据えた様々な取組を継続していくことは有用である。引き続き工夫をして、制限する</p>	<p>①生徒会役員や各種実行委員会等の生徒の主体的な活動への支援を綿密に、丁寧に行い、生徒の意欲と成果を引き出すことができた。積年の伝統を生かすことと新しい価値観や多様性を重視し、新たな取組への挑戦にも取り組めるような環境整備や支援体制を構築していきたい。</p> <p>①活動の活性化については、内容の充実と指導體制の整備が課題として挙げられており、教職員の働き方改革と指導の充実のバランスを取りながら、生徒の主体的な取組により充実した活動が展開できるようにしたい。</p> <p>②ICT機器や情報発信ツールの多様化、活用により多くの情報を提供した一方、情報の整理や共有・活用方法の工夫と仕組みをオーソライズできるようにしたい。</p> <p>②個別支援や相談支援の充実に向けてSCやSSWの活用を進め</p>	<p>○学校行事の運営には委員会の生徒を中心に据え、適宜委員会を開き、自ら考え発信する力をつけさせる。生徒がより協働できるような仕組みを構築し、生徒の活動・活躍の場を与えられるように支援をする。</p> <p>○部活動の活性化について、顧問の複数配置や部活動インストラクターの適正配置を図るほか、安全・安心な活動環境整備に向けて職員の意識や技術・技能の向上に努める。</p> <p>有意な情報の発信と共有方法について、頻度に加え内容の精選や先駆的な内容の提供など質の向上を図り、映像配信等新たな取組を行う。</p> <p>○相談支援体制の改善について、生徒とのコミュニケーションの深化と支援体制の強化に努め、またSC、SSWの活用や職員の対応スキルの向上を図りたい。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			見・対応するための体制を整えるほか、SC、SSWと連携し多様な支援の手立てを構築する。	②個別支援が必要な生徒へ、チーム支援により対応の充実を図る。	てケース会議を開催できたか。情報共有が速やかに行えたか。	見・対応し、さらにSC及びSSWと連携し多様な支援の手立てを構築した。		のではなく活用する視点を持って対応してほしい。	ることができた。引き続き、相談体制の充実と外部機関との連携を進めたい。	
3	進路指導・支援	①自立した市民として社会で活躍する力を育むための進路希望実現を体系的な指導と情報提供・支援により行う。 ②長期的な展望に基づくキャリアプランを主体的に考えることができる資質を育む。	①長期的な視野に立ち、計画的に次の進路を考えられるよう適切な指導を行う。 ②変化する社会、入試制度に対応できるような情報収集の確かな方法、主体的に判断する力を養う指導を行う。	①十分な情報提供を元に、探究・LHRの時間を通じて長期的な視野に立った進路計画を作成するとともに、適切な時期に説明会等を行う。 ②新課程に対応する入試制度についての情報収集に努め、対象学年の生徒に対して、説明会等で指導を行う。	①長期的な視野に立ったライフプランニングから第一志望届が提出できたか。 ②入試制度の改革についての情報収集が適切に行えたか。 ③対象生徒や保護者に対して、入試改革についての説明会が実施できたか。	①1年次より段階的に、長期的な視野に立った進路計画を生徒自らが立てることができるよう説明会等を実施して指導を行った。2年次の第一志望届は、ほぼ全員が提出することができた。 ②入試制度の変更については、情報収集に努めるとともに、探究・LHRを利用して周知に努めた。	①コロナによる制限が緩和され、外部の人材・機関による説明会が実施できるようになり、指導方法の選択肢が拡大した。より有効な活用方法を模索したい。 ②入試制度の変更の情報は収集に努めたが、情報が多岐にわたり、生徒・保護者の理解が進むように説明するにはより工夫が必要である。	①順調に進路実績を伸ばしていることは、後進の生徒にとっても目標、励みになる。更なる高みを目指す指導支援体制を整えたい。 ②新しい学力観やキャリア観が提唱され、生徒に求められるキャリアプランも速い流れで変化している。文理融合の流れやAIの利活用、将来のキャリアプランの考察など時代の変化を先取りした情報の提供、支援が今後重要になる。	①変化著しい進路情勢に対応した情報収集と提供を生徒の状況に合わせて段階的に行い、キャリア形成や進路ガイダンスにかすことができた。また、具体的な進路選択、進路実績についても伸長を図ることができた。 ②早い段階から、進路選択のためのキャリアガイダンスの充実と選択に向けての意識を高めることができている。更なる高みをめざすため、選択の幅を広げられる、新たな社会への対応のための総合力を高める必要がある。	○今までの指導・支援体制に加えて、文理融合などにも対応できる進路指導体制の構築を図る。探究的な学習の充実や教科横断的な成果の取り込みなどの仕組みや情報提供を行い、多様な入試形態にも対応できる支援体制の充実を図る。 ○自立した市民、有意な社会人を育む視点から、社会参加や地域貢献、インターンシップなど様々な機会に主体的に参加できるように十分な情報提供と支援を行う。
4	地域等との協働	地域等との連携や協働を進め、持続的な発展を可能とする社会で一定の役割を果たす。また、地域交流、ボランティア等を通じた社会貢献により、開かれた学校づくりに取り組む。	①学校におけるIT環境の整備とともにアフターコロナに向けた新しい地域との連携の方法を模索する。 ②学校のホームページ等のITを活用しつつ地域や入学希望者と対面して学校の魅力を発信する。	①IT環境を活用し、コロナ禍で変化した新しい地域との連携の方法を協議または実践することができたか。 ②学校のホームページ等において、生徒の学びが分かる情報発信を行う。 ③説明会、学校行事または地域交流を通じて対面しての学校の魅力を発信する機会を増やす。	①IT環境を活用し、コロナ禍で変化した新しい地域との連携の方法を協議または実践することができたか。 ②学校のホームページ等において、生徒の学びが分かる情報発信を年間20回行えたか。 ③説明会、学校行事または地域交流を通じて対面しての学校の魅力を発信する機会が増加したか。	①ICTを活用し、学校説明会において生徒の授業風景を動画で閲覧できるようにした。 ①文化祭では学校説明ブースを設け、質問者対応を対面で行った。 ②③学校説明会や見学会等の参加者数の総数が大幅に増大した。 学校ホームページについては、平均して月3回程度は学校の様子を配信した。	①動画を活用した授業風景のコンテンツが少ないので、新たに作成したい。 ③文化祭での学校説明ブースを次年度も設けたい。 ②ホームページについては引き続き、生徒たちの活動の様子を外部に発信していきたい。 ③各種説明会への参加希望者が一人でも多く参加できるように調整する。	①動画活用は、個人情報の保護の観点等から制約が多いが、学校の活力や雰囲気、様子を伝えるための有効な手段であることから、生徒の顔が見える工夫を今後行うことが望まれる。 ②ホームページの更新は十分な回数で適時に行われており、今後も継続して情報発信を期待する。 ③説明会の効果測定や入学者へのアンケート、中学校や地域への聞き取りなどを元にニーズの把握とその対応を求めたい。	①ICT機器の導入やコンテンツの導入により、動画配信や様々な形態の情報提供、効率的な説明会の運営、実施を行うことができた。引き続き、コンテンツや情報の蓄積、広報ノウハウの改善を進め、地域、中学生やその保護者に対する本校の理解を深めたい。 ②③ホームページの運営による教育活動の情報発信について、頻度、内容を充実させることができた。生徒の映像など個人情報に配慮しつつ魅力が伝えられるよう工夫できた。今後動画配信などより分かりやすく、視聴しやすい環境を整えたい。	○各種説明会の参加実績の伸長のため、事前の広報活動の充実、発信する情報内容の充実、資料・パンフだけでなく動画コンテンツなどの作成を進め、より身近で分かりやすく、進路選択の決め手となるものを作成していく。 ○地域との連携や協働については、単発的な行事に加えて任意性の高い活動への参加、ボランティアや自主的な取組を支援する仕組みを構築する。また十分な情報提供ができる場の開設を検討する。
5	学校管理 学校運営	生徒の安心・安全な学校生活の場としての学校の管理運営を推進するとともに、職員による業務改善、意識向上により事故・不祥事防止を図り、効率的な学校運営を行う。	①避難訓練及びDIG研修を通じて命を守る教育の推進と生徒の防災・減災への意識を醸成する。 ②不祥事事故防止の意識向上を図り不祥事根絶を目指す。 ②教職員の働き方改革を推進し効率的な学校運営を目指す。	①DIG研修等を通じて防災・減災への意識醸成と共に地域を守る一員としての自覚を養う。 ②事故不祥事防止研修機会を定期的設け、職員の意識向上を図る。 ②時間外労働の抑制や年休等の取得の推進を図る。	①生徒の主体的な取組により防災・減災への意識の向上が見られたか。 ②年12回以上の事故不祥事防止研修機会の設定と不祥事の根絶を図れたか。 ②時間外勤務の削減や年休等取得率が前年度比で改善したか。	①事故防止研修機会を設定し、事案討議など2回(地震・火災)の避難訓練および防災教育、DIG研修により防災減災の意識が向上した。 ②15回の事故不祥事防止研修機会を設定し、事案討議などを行った。 ②時間外勤務の削減・年休取得が前年比で改善した。	①一部の生徒(防災委員)の主体的な取組は出来たが、他の生徒も巻き込みながら、防災・減災の意識の向上の輪が広がればと思う。 ②採点システムに加え、業務システム導入などによりさらに時間外勤務削減、年休取得推進を図っていく。	①より実践的な訓練や様々な災害や場面に対応した訓練や経験を積む機会を設けることにより、災害対策、自助、共助の姿勢とスキルを高めてほしい。 ②安心安全な学校環境整備に引き続き努め、事故不祥事防止についても、継続的な取組をお願いしたい。	①定期的な訓練やDIGなどの取組が定着した上で、生徒の自主的な取組や運営による訓練、自助意識の向上などに努めたい。 ②不祥事防止の取組は会議や研修機会を随時設け実施し、時宜を得た注意喚起と意識の向上を図ることができた。 ②時間外勤務の削減や年休取得が進み、事故防止や充実した教育活動実施に余裕をもってあたれるようになった。	○生徒主体の防災委員会の開催と訓練方法や運営の実績を重ねながら、生徒主体の防災意識の向上を図る。 ○引き続き事故不祥事防止のための取組を継続させ、教職員の意識を高めたい。 ○職場環境改善と教育活動の充実の両立を図るための工夫を重ね、バランスのよい職場環境を整える。